

生物多様性いちかわ戦略 2021年、2022年の進捗について

① 基本戦略	② 行動計画	③ 2025年までの短期目標	④ 施策 (赤字:2023年度～重点施策)	No	⑤ 指標項目 (赤字:2023年度からの指標)	⑤ 取組実績 及び ⑥ 取組内容										2025年度の達成目標									
						2014(平成26)年度	2015(平成27)年度	2016(平成28)年度	2017(平成29)年度	2018(平成30)年度	2019(令和元)年度	2020(令和2)年度	2021(令和3)年度	2022(令和4)年度	赤字:2023年度からの目標										
生物多様性の保全・再生 「自然と自然をつなげる」	(1) 地域の核となる自然環境を保全していきます	生物多様性の配慮をすべての市の施策に浸透させます	行徳近郊緑地特別保全地区の生物多様性の状況	1-1	鳥獣保護区(56ha)の鳥類確認種数:91種	鳥獣保護区(56ha)の鳥類確認種数:91種	鳥獣保護区(56ha)の鳥類確認種数:89種	鳥獣保護区(56ha)の鳥類確認種数:87種	鳥獣保護区(56ha)の鳥類確認種数:84種	鳥獣保護区(56ha)の鳥類確認種数:92種	鳥獣保護区(56ha)の鳥類確認種数:86種	鳥獣保護区(56ha)の鳥類確認種数:86種	鳥獣保護区(56ha)の鳥類確認種数:78種	【旧(～2022年度)】/生物多様性の回復 【新(2023年度～)】/生物多様性の維持											
				【具体的取り組み】	NPO行徳自然ほこらぶ(IBNPO法人行徳野鳥観察会)が千葉県から委託を受け、行徳鳥獣保護区の管理業務等を行っている。																				
				【新(2023年度～)】1-2	あいねすとの来館者数											生物多様性についての知識の向上									
			市内緑地の保全と活用(2023年度～重点施策)	1-2	来館者に行徳近郊緑地に生息する鳥や生き物など自然の写真や館内に展示し、生物多様性の状況を伝えながら環境問題について考えるきっかけをつくる。											生物多様性の回復									
				【具体的取り組み】	来館者に行徳近郊緑地に生息する鳥や生き物など自然の写真や館内に展示し、生物多様性の状況を伝えながら環境問題について考えるきっかけをつくる。																				
			大町公園の生物多様性の状況	2	大町公園、市民キャンプ場、霊園の適正な管理	大町公園の安全管理	大町公園の安全管理 ・樹木伐採29本(高木)	看板等修繕、水路整備修繕、樹木伐採等業務委託、草刈業務委託等環境改善事業を実施	看板、水路の一部の整備修繕を完了、委託による樹木伐採、草刈を部分的に完了	看板、水路の一部修繕を行った。また、委託による樹木の剪定、伐採、草刈を実施。	大池の末端部を堰止めて、水位の嵩上げを行った。また、園路沿いの樹木の伐採を実施	ナラ樹木対象や樹木の剪定等を実施。											生物多様性の回復		
				【具体的取り組み】	・地表面に光が入るよう、生い茂った樹木の剪定及び間伐を定期的に行っている。 ・水辺環境を保全するため、灘地の草刈や土廻りを定期的に行っている。																				
			民有樹林地の保全協定の維持(2023年度～重点施策)	3	協定山林の面積	38.1ha	38.1ha(対H26年度比)増減なし	37.7ha(対H26年度比)△1%	38.2ha(対H26年度比)2.6%	37.1ha(対H26年度比)△2.6%	37.1ha(対H26年度比)△2.6%	36.2ha(対H26年度比)△5%	36.1ha(対H26年度比)△5.3%	35.9ha(対H26年度比)△5.8%											民有樹林地の保全
				【具体的取り組み】	山林所有者で構成される「市川みどり会」、神社3社、樹林管理組合に「市川市緑地等保全事業補助金」を交付している。																				
			水辺の生物多様性の保全再生	三番瀬の再生事業の促進	4	真間川水域水循環系再生構想の推進	構想の実施計画である「真間川水循環系再生動計画」に対する、4市の取り組み状況を、真間川懇談会で報告し合った。	構想の実施計画である「真間川水循環系再生動計画」に対する、4市の取り組み状況を、真間川懇談会で報告し合った。	構想の実施計画である「真間川水循環系再生動計画」に対する、4市の取り組み状況を、真間川懇談会で報告し合った。	県及び市川市を含む関係市が、計画レベルで推進中。	5人槽4基、10人槽1基に対して高度処理型合併浄化槽への転換補助を行った。(3,092,000円)	5人槽2基に対して高度処理型合併浄化槽への転換補助を行った。(1,548,000円)	5人槽6基に対して高度処理型合併浄化槽への転換補助を行った。(5,544,000円)	5人槽5基、7人槽1基に対して高度処理型合併浄化槽への転換補助を行った。(5,615,000円)	5人槽4基、7人槽1基に対して高度処理型合併浄化槽への転換補助を行った。(4,688,000円)										
【具体的取り組み】	2017(平成29)年度より、高度処理型合併浄化槽への転換及び雨水貯留施設等の設置に対して助成を行っている。																								
【具体的取り組み】	雨水貯留施設(雨樋取付型)7件、雨水貯留施設(浄化槽乾用型)2件の設置に対する助成を行った。(195,712円)																								
三番瀬再生事業の推進	5	三番瀬再生事業の促進	県にて「三番瀬干潟の環境形成検討事業業務委託」を実施	県と干潟の環境形成について協議した状況。県による事業化が難しい旨が示された。	県に人工干潟造成を要望	県に人工干潟造成を要望	県に人工干潟造成を要望	県に人工干潟造成を要望	県に人工干潟造成を要望	県に人工干潟造成を要望	県に人工干潟造成を要望	県に人工干潟造成を要望	県に人工干潟造成についての研究											水辺環境の生物多様性の回復	
	【具体的取り組み】	・県が実施した「干潟の環境形成検討事業業務委託」の結果をもとに、県と干潟の環境形成について協議を行った。 ・2016(平成28)年度より、県に対して人工干潟造成を毎年要望している。																							
三番瀬再生事業の推進	6	三番瀬再生事業の推進	漁業協同組合が漁場改善のため底土を実施(783㎡)	漁業協同組合が漁場改善のため底土を実施(528㎡)	漁港整備事業で発生する土砂を漁場へ約5,000㎥投入し、有効活用した。	漁港浚渫土砂を活用し、漁場に砂入約7,000㎥を実施	漁港浚渫土砂を活用し、漁場に砂入約5,000㎥を実施	漁港改善を目的とした団体へ支援を実施	漁港改善を目的とした団体へ支援を実施	漁港改善を目的とした団体へ支援を実施	漁港改善を目的とした団体へ支援を実施	・前年度浚渫土砂を活用し、漁場に砂入(約2,600㎥)を実施 ・漁業改善を目的とした団体へ支援を実施											三番瀬漁場の再生		
	【具体的取り組み】	・漁場再生のため、漁業協同組合で底土を実施した。また、市川漁港整備事業で発生した浚渫土を漁場に砂入して有効活用した。 ・ツメタガイやワミグモを除去することで、アサリ等の食害を未然に防いだ。 ・アサリ稚貝やハマグリ稚貝を漁場へ放流し、稚貝の沈着促進を実施した。 ・漁場再生のため、航路整備事業で発生した浚渫土を漁場に砂入して有効活用した。																							
優良農地の保全	7	農業振興地域の面積	386ha	386ha	381ha	381ha	381ha	386ha	386ha	386ha	386ha											一部市農業の振興			
			【具体的取り組み】	・生産者への各種補助事業の実施 ・農地の利用促進 ・民設市民農園開設への支援 ・農業に係るPRの強化																					

① 基本戦略	② 行動計画	③ 2025年までの短期目標	④ 施策 (赤字:2023年度~重点施策)	No	⑤ 指標項目 (赤字:2023年度からの指標)	⑤ 取組実績 及び ⑥ 取組内容							2025年度の達成目標 (赤字:2023年度からの目標)			
						2014(平成26)年度	2015(平成27)年度	2016(平成28)年度	2017(平成29)年度	2018(平成30)年度	2019(令和元)年度	2020(令和2)年度		2021(令和3)年度	2022(令和4)年度	
「生物多様性の保全・再生」と自然と自然をつなげる」	(2) 身近な自然環境の保全再生を図ります	生物多様性の配慮をすべての市の施策に浸透させます	都市公園の整備	8	都市公園の面積	以下新設 瑞川クロマツ公園 市川南第3公園 中山1丁目公園 東中前公園 八幡5丁目大和緑公園	2箇所の児童遊園地(大野4丁目公園H23)、輪越公園H26)を都市公園として位置付けた。	北市川運動公園(新設) 殿台公園(新設)	西新田公園(新設) 下貝塚3丁目公園(新設) 久保上公園(新設) 宮久保公園(新設)	柏井法伝公園(新設) 曹野駅北口公園(新設)	殿台第2公園(新設) 柏井町さつき公園(新設) 柏井2丁目緑地(増加) 国府台東桜緑地(増加) 国府台緑地(増加)	塩浜三番瀬公園(新設) 下妙典公園(増加) 小塚山公園(増加)	柏井町さくら公園(新設) 実新山公園(新設) 南道公園(新設) 柏井第3公園(新設) 八幡児童公園(区画変更・増加) 北方児童公園(廃止)	ノ市街地の都市公園の拡充と保全		
			【具体的取り組み】	・宅地開発事業の施行により、提供公園の整備を毎年度行っている。 ・自然環境の保全や自然とのふれあいがコンセプトである都市公園を整備した。												
			市街地の緑地の保全	9	都市緑地の面積	60.58ha	69.94ha	71.17ha	76.9ha ※市川市都市計画マスタープランの改定等の際、生物多様性への配慮を検討	76.09yha	76.16ha	76.41ha	76.41ha	76.41ha	76.41ha	ノ市街地の都市緑地の拡充と保全
			【具体的取り組み】	都市計画緑地の買収を進めた。												
			河川環境の保全	10	生物の生息状況 海〜川〜谷津のつながり	全体延長1,621mのうち1,496m(92.3%)が整備済	全体延長1,621mのうち1,496m(92.3%)が整備済	全体延長1,621mのうち1,551m(96%)が整備済	全体延長1,621mのうち1,551m(96%)が整備済	全体延長1,621mのうち1,551m(96%)が整備済	全体延長1,621mのうち1,588m(98%)が整備済	全体延長1,621mのうち1,588m(98%)が整備済	全体延長1,621mのうち1,621m(100%)が整備済	整備済	整備済	ノ河川の生物多様性の回復
			【具体的取り組み】	護岸形式について、既設の矢板護岸から多自然型護岸への変更を順次行っている。												
			市民に親しまれる身近な自然環境の再生 (2023年度~重点施策)	11	子どもたちが体験・体感できる場	各学校で実施 いちかわ戦略周知のため開催	学校ビオトープは各学校に委ねている 推進会議の開催は、各学年で実施(2回開催)	学校ビオトープは各学校で実施 生物多様性いちかわ戦略推進会議及び担当会議を各1回開催した	生物多様性セミナーにおいて学校ビオトープの啓発を実施 14校程度の学校で小規模な学校ビオトープを設置	市内小・中学校の教員を対象とした生物多様性セミナーを行い、学校ビオトープの啓発を実施(当該セミナーは5/15・16に実施)	学校ビオトープは各学校に委ねている (昨年度、学校ビオトープに関する啓発は未実施)	学校ビオトープは各学校に委ねている (学校ビオトープに関する啓発は未実施)	江戸川ビオトープは、年1回単対および専門員による生物調査を実施している。	江戸川ビオトープは、年1回単対および専門員による生物調査を実施している。	学校ビオトープは各学校に委ねている (学校ビオトープに関する啓発は未実施)	子どもたちが体験・体感できる場の形成
			【具体的取り組み】	・学校ビオトープは、各学校に委ねている。 ・江戸川ビオトープの適切な維持管理作業を行っている。 ・江戸川ビオトープ看板に、既設ことに見られる生き物を写真つきで紹介している。												
			地域本来の生物相の保護・再生	12	在来種の生息地の状況	浅井戸水の供給	イノシシラフラスコモの生息域外保全の実施として、浅井戸水の供給	浅井戸水の供給	イノシシラフラスコモの生息に必要な浅井戸水を供給	イノシシラフラスコモの水質調査を実施。生息状況を確認。	イノシシラフラスコモの生息に必要な浅井戸水の水質調査を実施。生息状況を確認。	イノシシラフラスコモの水質調査を実施。生息状況を確認。	イノシシラフラスコモの生息に必要な浅井戸水の水質調査を実施。生息状況を確認。	イノシシラフラスコモの生息に必要な浅井戸水の水質調査を実施。生息状況を確認。	イノシシラフラスコモの生息に必要な浅井戸水の水質調査を実施。生息状況を確認。	一在来種の生息環境の保全
			【具体的取り組み】	じゅん菜池緑地内に生息する「イノシシラフラスコモ」の水質調査及び生育状況の確認を行っている。												
	外来生物対策 (2023年度~重点施策)	13	アライグマの侵入状況	アライグマは市内で繁殖には至っていない	捕獲:3頭 ロードキル:2頭	目撃情報:2頭 捕獲:2頭 目撃情報:0頭	目撃:8件 捕獲:4頭	目撃:6件 捕獲:2頭	千葉県アライグマ防除実施計画に基づき、対策を推進 委託による捕獲わな設置件数:10基、委託によるアライグマ捕獲処分数6頭	千葉県アライグマ防除実施計画に基づき、対策を推進 委託による捕獲わな設置件数:12基、委託によるアライグマ捕獲処分数12頭	千葉県アライグマ防除実施計画に基づき、対策を推進 委託による捕獲わな設置件数:29基、委託によるアライグマ捕獲処分数20頭	千葉県アライグマ防除実施計画に基づき、対策を推進 委託による捕獲わな設置件数:57基、委託によるアライグマ捕獲処分数:34頭	一外来種の侵入を防ぐ			
	【具体的取り組み】	・外来種被害予防三原則(入れない・捨てない・拡げない)ポスターを、大柏川第一調節池緑地内に掲示している。 ・外来生物問題の普及啓発のため、大柏川第一調節池緑地(ビジターセンター)に、「外来生物対策コーナー」を設置している。 ・特定外来生物であるアライグマの捕獲、処分 ・特定外来生物であるオオソコサモ、アレチワリの除去(大柏川第一調節池緑地内) ・外来生物であるミシジキアカミミガメの捕獲・処分(大柏川第一調節池緑地内) ・特定外来生物であるオオキンケイギクの除去(発見した場合)														
	園芸植物やベットの適正な管理と飼育	14	【旧(〜2022年度)地域戦略の市民認知度 【新(2023年度~)外来生物についての啓発活動数】	「ガーデニングシティ・いちかわ」の推進により在来種の生息環境保全を図った	「ガーデニングシティ・いちかわ」の推進により在来種の生息環境保全を図った	「ガーデニングシティ・いちかわ」の推進及び、「美しいまち並み」の推進により在来種の生息環境の保全を行った	ガーデニングシティ・いちかわ及び、美しいまち並み支援事業により在来種の生息環境の保全を図った	ガーデニングシティ・いちかわ及び景観まちづくりの取り組みにより、在来種の保全を図った	ガーデニングシティ・いちかわ及び景観まちづくりの取り組みにより、在来種の生息環境の保全を図った	ガーデニングシティ・いちかわ及び景観まちづくりの取り組みにより、在来種の生息環境の保全を図った	ガーデニングシティ・いちかわ及び景観まちづくりの取り組みにより、在来種の生息環境の保全を図った	ガーデニングシティ・いちかわ及び景観まちづくりの取り組みにより、在来種の生息環境の保全を図った	【旧(〜2022年度)】→外来生物に関する適正な知識の普及 【新(2023年度~)】外来生物に関する適正な知識の普及			
	【具体的取り組み】	【旧(〜2022年度)】毎年度、ガーデニングシティ・いちかわ及び景観まちづくりを推進した。 【新(2023年度~)】外来種被害予防三原則の周知														

① 基本戦略	② 行動計画	③ 2025年までの短期目標	④ 施策 (赤字:2023年度~重点施策)	No	⑤ 指標項目 (赤字:2023年度からの指標)	⑤ 取組実績 及び ⑥ 取組内容						2025年度の達成目標 (赤字:2023年度からの目標)			
						2014(平成26)年度	2015(平成27)年度	2016(平成28)年度	2017(平成29)年度	2018(平成30)年度	2019(令和元)年度		2020(令和2)年度	2021(令和3)年度	2022(令和4)年度
「生物多様性の保全・再生 自然と自然をつなげる」	(4) 民有地の緑を増やしく 保全します	生物多様性の配慮をすべての市の施策に浸透させます	住宅地の緑化推進	15	住宅地の緑化に関する市民意識	生垣設置助成7件(95.4㎡) 屋上緑化助成0件(0㎡)	生垣設置助成4件(26.5㎡) 屋上緑化助成2件(14.7㎡) 駐車場緑化2件(54.5㎡)	生垣設置助成2件(17.5㎡) 屋上緑化助成0件 駐車場緑化3件(193.7㎡)	生垣設置助成5件(41㎡) 屋上緑化助成0件 駐車場助成2件(41.2㎡)	生垣設置助成2件(44㎡) 屋上緑化助成0件 駐車場助成0件	生垣設置助成4件(38㎡) 屋上緑化助成0件(0㎡) 駐車場助成3件(113.25㎡)	生垣設置助成4件(50㎡) 屋上緑化助成0件(0㎡) 駐車場助成5件(196㎡)	生垣設置助成3件(58.2㎡) 屋上緑化助成1件(28㎡) 駐車場助成実績なし	生垣設置助成2件(52.6㎡) 屋上緑化助成0件 駐車場助成0件	住宅地の緑化に関する市民意識の向上
			【具体的取り組み】	街中での緑化スペースを増やすため、生垣設置、屋上緑化及び駐車場緑化を進めた。											
			大型店舗や工場敷地の緑化推進	16	工場緑化の状況	緑化基準達成率:工場・事業所87%(27件/31件) 事業系建築物の申請において、関連法の協議対象となるものは100%達成 セミナー参加者26名	緑化基準達成率:工場・事業所56%(30件/54件)達成件数/届出件数 事業系建築物の申請において、関連法の協議対象となるものは100%達成	工場・事業場の緑化基準達成率75%(27件/36件) 宅地開発条例によるとりまどめを実施 道の駅の緑化推進:高木(ミヤマササ)1本、中低木(サカキ等)36本等	工場・事業場の緑化基準達成率69%(25件/36件)達成件数/届出件数 道の駅の緑化推進:高木(ミヤマササ)1本、中低木(サカキ等)36本等	工場・事業場の緑化基準達成率95%(28件/33件)達成件数/届出件数	工場・事業場の緑化届出件数27件 新たに大型店舗や工場棟を目的とした計画相談が届けられ、事業者が市川市宅地開発事業に係る手続及び基準等に関する条例に基づく関係行政機関協議を行う際に、協議先として生活環境保全課を指示し、市川市環境保全条例に基づき緑化が行われるよう努めた。(開発指導課)	工場等の緑化届出件数:29件 ・年度未踏点での工場等の緑地面積:968.726㎡	工場等の緑化届出件数:32件 ・年度未踏点での工場等の緑地面積:975.989㎡	工場等の緑化届出件数:35件 ・年度未踏点での工場等の緑地面積:975.196㎡	工場等の緑化届出件数:30地区 30.0地区 85.40ha
【具体的取り組み】	敷地面積が500㎡以上の工場・事業場を新設または変更(増改築等)しようとする場合で、かつ当該工場・事業場に建築物を設置する事業者に対し、市川市環境保全条例に定めた緑化基準(緑化率)を満足するよう、指導した。														
「豊かな文化と景観の保全・創出 ある景観を守ります」	(1) 地域の伝統ある行事を継承していきま	市民・事業者など様々な主体との協働により、広めていきま	都市農地の保全	17	生産緑地の指定面積	98.16ha	生産緑地指定 32.4地区 95.74ha	生産緑地指定 31.9地区 94.87ha	生産緑地指定 31.5地区 93.28ha	生産緑地指定 31.1地区 92.24ha	生産緑地指定 31.0地区 91.48ha	生産緑地指定 31.3地区 91.30ha	生産緑地指定 30.8地区 87.09ha	生産緑地指定 30.0地区 85.40ha	一生産緑地の維持
			【具体的取り組み】	<ul style="list-style-type: none"> 都市農地の保全のために、生産緑地地区の追加指定を行った。 生産緑地の活用につながる、都市農地賃借法に基づく事務手続きを行っている。 											
			【具体的取り組み】	<ul style="list-style-type: none"> ①観光・物産案内所での情報発信②市川案内人の会の活動③市川市観光協会が主催する観光講座への支援(観光交流)④街回遊展でのガイドツアーの実施⑤まち案内所開設(文化振興) ①観光・物産案内所での情報発信②市川案内人の会の活動③市川市観光協会が主催する観光講座への支援(観光交流)④街回遊展でのガイドツアーの実施⑤まち案内所開設(文化振興) ③いちかわ観光・物産案内所での情報発信②市川案内人の会の活動③市川市観光協会が主催する観光講座への支援(観光交流)④街回遊展でのガイドツアーの実施⑤まち案内所開設 											
「豊かな文化と景観の保全・創出 ある景観を守ります」	(2) 地域の伝統ある行事を継承していきま	市民・事業者など様々な主体との協働により、広めていきま	地域の伝統ある行事の継承	18-1	【旧(～2022年度)案内人の活動 【新(2023年度～)】伝統行事の案内	①観光・物産案内所での情報発信②市川案内人の会の活動③市川市観光協会が主催する観光講座への支援(観光交流)④街回遊展でのガイドツアーの実施⑤まち案内所開設(文化振興)	①観光・物産案内所での情報発信②市川案内人の会の活動③市川市観光協会が主催する観光講座への支援(観光交流)④街回遊展でのガイドツアーの実施⑤まち案内所開設	③いちかわ観光・物産案内所での情報発信②市川案内人の会の活動③市川市観光協会が主催する観光講座への支援(観光交流)④街回遊展でのガイドツアーの実施⑤まち案内所開設	案内人の会、観光協会の活動を支援	案内人の会、観光協会の活動を支援	案内人の会、観光協会の活動を支援	中山おひなまつりなど地域の行事でのまちあそび、食文化・観光施設での案内を実施。	いちかわ観光・物産案内所での情報発信や特産品等の紹介。まち歩きイベントにて観光スポットを案内。	いちかわ観光・物産案内所での情報発信や特産品等の紹介。まち歩きイベントにて観光スポットを案内。	一自然に根差した地域文化の継承
			【具体的取り組み】	<ul style="list-style-type: none"> 【旧(～2022年度)】 いちかわ観光・物産案内所に観光客等に観光スポット・各種イベント情報等の提供や、特産物・工芸品などを紹介した。 「行こう市川ちよい歩き」事業において、市内の魅力なスポットを(再)発見のためのまち歩きイベントを実施した。 【新(2023年度～)】市川案内人の会による伝統行事の案内 いちかわ真間川堤稼ワーク2021期間中に、いちかわの桜を巡るまち歩きを実施した。 観光案内等を行うボランティアに対し、より実践的な体験を身に付けてもらうための指導や育成実施した。 											
			【具体的取り組み】	指定無形民俗文化財への補助											
「豊かな文化と景観の保全・創出 ある景観を守ります」	(2) 地域の伝統ある行事を継承していきま	市民・事業者など様々な主体との協働により、広めていきま	社寺林と周辺緑地の保全	19	特別緑地保全地区の指定面積	近郊緑地特別保全地区 ・行徳近郊緑地特別保全地区8.3ha	近郊緑地特別保全地区 ・行徳近郊緑地特別保全地区8.3ha	近郊緑地特別保全地区 ・行徳近郊緑地特別保全地区8.3ha	近郊緑地特別保全地区 ・行徳近郊緑地特別保全地区8.3ha	近郊緑地特別保全地区 ・行徳近郊緑地特別保全地区8.3ha	近郊緑地特別保全地区 ・行徳近郊緑地特別保全地区8.3ha	近郊緑地特別保全地区 ・行徳近郊緑地特別保全地区8.3ha	近郊緑地特別保全地区 ・行徳近郊緑地特別保全地区8.3ha	近郊緑地特別保全地区 ・行徳近郊緑地特別保全地区8.3ha	一市街地の緑地空間の保全
			【具体的取り組み】	特になし。											
			【具体的取り組み】	指定無形民俗文化財の支援											

① 基本戦略	② 行動計画	③ 2025年までの短期目標	④ 施策 (赤字:2023年度~重点施策)	No	⑤ 指標項目 (赤字:2023年度からの指標)	⑤ 取組実績 及び ⑥ 取組内容										2025年度の達成目標 赤字:2023年度からの目標
						2014(平成26)年度	2015(平成27)年度	2016(平成28)年度	2017(平成29)年度	2018(平成30)年度	2019(令和元)年度	2020(令和2)年度	2021(令和3)年度	2022(令和4)年度		
「豊かな文化を創り出す」 「様々な人や組織の協働」	(1) 市民と事業者と行政の協働により、自然環境の保全をおこなう	市民・事業者など様々な主体との協働により、生物多様性についての理解を広げていきます	巨樹や巨木の保全	20	協定本数	189本	178本 (対H26年度比) △5.8%	175本 (対H26年度比) △7.4%	175本 (対H26年度比) △7.4%	170本 (対H26年度比) △10.1%	175本 (対H26年度比) △7.4%	172本 (対H26年度比) △9%	169本 (対H26年度比) △10.6%	170本 (対H26年度比) △10.1%	巨樹、巨木の保全	
			【具体的取り組み】巨樹・巨木の保全をするために、市と協定を締結した樹木を対象に「市川市協定樹木管理等補助金補助金」を交付し、樹木の適切な維持管理への協力を行っている。													
			市民ボランティアによる緑地や山林の保全	21	保全緑地の状況	12箇所	16箇所	17箇所 ※民有林1箇所にて新たな整備を開始。連絡協議会へ在12回参加、活動視察計4回実施	17箇所	15箇所	15箇所	15箇所	15箇所	15箇所	15箇所	生物多様性に配慮した保全
	【具体的取り組み】市有及び民有の緑地や山林において、市民ボランティアによる月1回から2回の定期的な活動を実施し、市内の緑地や山林を整備している。															
	事業者による緑地の管理	22	【旧(～2022年度)】地域戦略の事業者認知度 【新(2023年度～)】事業者・市民を対象とした講演会への参加者数	生物多様性セミナーへの参加事業者数:16社	生物多様性セミナーへの参加事業者数:51名	生物多様性セミナーへの参加事業者数:14名	生物多様性セミナーへの参加事業者数:14名	学校(市内小中学校教職員)を対象に生物多様性セミナーを実施54名 ※市内民間事業者を対象とした、いちかわ戦略の認知促進活動は未実施	市内民間事業者を対象とした、いちかわ戦略の認知促進活動は未実施	市内民間事業者を対象とした、いちかわ戦略の認知促進活動は未実施	千葉商科大学にて、大学生を対象に生物多様性セミナーを実施:10名	千葉商科大学にて、大学生を対象に生物多様性セミナーを実施:17名	【旧(～2022年度)】いちかわ戦略の市内事業者への認知 【新(2023年度～)】事業者に対するみどりの管理に関する知識の普及			
	【具体的取り組み】 【旧(～2022年度)】専門家を講師に招き、事業者を含めた市民に生物多様性について理解を深めてもらった。 H26 講師:北越製紙、地域環境計画(参加者28名) H27 講師:山崎製パン、緑のボランティア(参加者51名) H28 講師:県中央博物館、NPO日本鳥類保全協会(参加者17名)、講師:セイコーインスツル、都市鳥研究会(参加者39名) H29 講師:NECファシリテーズ、手賀沼水生生物研究会、都市鳥研究会(参加者35名) H30 講師:日本自然保護協会(参加者16名)、講師:都市鳥研究会(参加者38名)															
	市民ボランティア活動への支援体制の整備	23	【旧(～2022年度)】事業の進捗状況 【新(2023年度～)】ボランティア団体の交流会の実施状況	-	-	森の交流会:12回開催 活動視察:4回実施	森の交流会:12回開催 ボランティア9団体 会員数164名	森の交流会:12回開催 ボランティア9団体 会員数164名	森の交流会を開催し、共通認識の形成を図っている ボランティア9団体 会員数164名	森の交流会を開催し、共通認識の形成を図っている ボランティア9団体 会員数164名	森の交流会を開催し、共通認識の形成を図っている ボランティア8団体 会員数169名	森の交流会を開催し、共通認識の形成を図っている ボランティア8団体 会員数169名	市民ボランティア活動への支援体制の推進			
	【具体的取り組み】【旧(～2022年度)】ボランティア団体が交流する「森の交流会」を、月1回開催している。 【新(2023年度～)】生物多様性地域戦略の推進															
	(2) 市民ボランティア活動に参加する市民や事業者の育成をおこなう	市民ボランティアの育成	24	花と緑の講習会 年間開催講座数	10講座	10講座	10講座	10講座	9講座	9講座	9講座	9講座	9講座	9講座	花と緑に関する知識と技術の普及	
		【具体的取り組み】花と緑の講習会の講座を年間10講座程度開催している。														
いちかわこども環境クラブの参加 クラブ数・メンバー人数		25	10団体、90人	7団体、118人	23団体、392人	21団体、313人	21団体、219人	29団体、212人	31団体、170人	29団体、129人	30団体、161人	【旧(～2022年度)】25団体 【新(2023年度～)】35団体 (23年度33団体、24年度34団体)				
【具体的取り組み】製狩り体験や大町公園散策などのイベントを満して、他クラブのメンバーやサポーター、講師である農家の方々と触れ合いながら、将来に渡って環境にやさしい暮らしを送るための意識を育てている。 ・市民団体や環境省などのイベント情報を周知することで、自主的な活動を促している。																
市民と市民ボランティアとの交流の場の提供(2023年度~重点施策)	26	エコギャラリー 参加団体数	12団体	13団体	13団体	13団体	11団体	10団体	9団体	5団体	8団体	20団体(23年度13団体、24年度17団体)				
【具体的取り組み】いちかわ環境フェアやエコギャラリーといった市民ボランティアの活動発表の場を設け、市民にその活動を周知している。																
市民ボランティアへの支援(2023年度~重点施策)	27	環境団体 登録団体数	環境活動団体:36団体 緑のボランティア活動支援:8団体	環境活動団体:36団体 緑のボランティア活動支援:10団体	環境活動団体:35団体 緑のボランティア活動支援:10団体	環境活動団体:35団体 緑のボランティア活動支援:9団体	環境活動団体:33団体 緑のボランティア活動支援:9団体	環境活動団体:32団体 緑のボランティア活動支援:9団体	環境活動団体:32団体 緑のボランティア活動支援:8団体	環境活動団体:32団体 緑のボランティア活動支援:8団体	環境活動団体:32団体 緑のボランティア活動支援:8団体	45団体(23年度42団体、24年度43団体)				
【具体的取り組み】いちかわこども環境クラブへ登録している親子を対象に、市民ボランティアが実施するイベントを周知し、参加者を募っている。 ・いちかわこども環境クラブにおける事業で、市民ボランティアへ講師の依頼をしている。																

① 基本戦略	② 行動計画	③ 2025年までの短期目標	④ 施策 (赤字:2023年度~重点施策)	No	⑤ 指標項目 (赤字:2023年度からの指標)	⑤ 取組実績 及び ⑥ 取組内容								2025年度の達成目標 赤字:2023年度からの目標			
						2014(平成26)年度	2015(平成27)年度	2016(平成28)年度	2017(平成29)年度	2018(平成30)年度	2019(令和元)年度	2020(令和2)年度	2021(令和3)年度		2022(令和4)年度		
「様々な人や組織の協働」	(3) 生物多様性に関する知識と理解を広めていきます	市民・事業者など様々な主体との協働により、生物多様性についての理解を広めていきます	生物多様性に関する知識の普及啓発	28	生物多様性に関する講座への参加者数	11回	自然環境講座:6回、94人 モニタリング研修会:4回 生物多様性セミナー:1回、51人	自然環境講座:10回、187人 生物多様性セミナー:2回、56人	自然環境講座:10回、120人 生物多様性セミナー:1回、35人	自然環境講座:4回、48人 生物多様性セミナー:2回、55人 環境学習プログラム:25回、288人	自然環境講座:3回、26人 生物多様性セミナー:1回、29人 環境学習プログラム:25回、265人	自然環境講座:4回、48人 生物多様性セミナー:1回、10人	自然環境講座:1回、2人 生物多様性セミナー:1回、10人	自然環境講座:4回、165人 生物多様性セミナー:1回、17人	【旧(〜2022年度)】/200人年 【新(2023年度〜)】/350人年 (23年度330団体、24年度340団体)		
						【具体的取り組み】生物多様性に関する講座(自然環境講座、生物多様性セミナー、環境学習プログラム)を開催した。											
						生物多様性に関する調査と資料・情報収集・保存	指標生物による把握	—	シンボル種(鳥類)確認数500羽(7月〜2月) いきものマップ アクセス数3,804件 投稿数388件 調査員数66人	シンボル種(鳥類)確認数1,082羽 いきものマップ アクセス数4,042件 投稿数455件 調査員数94人	シンボル種(鳥類)確認数993羽 いきものマップ アクセス数3,979件 投稿数311件 調査員数100人	シンボル種(鳥類)確認数690羽 いきものマップ アクセス数4,172件 投稿数363件 調査員数128人	シンボル種(鳥類)確認数1,465羽 いきものマップ アクセス数4,317件 投稿数506件 調査員数131人	シンボル種(鳥類)確認数1,332羽(行徳除く) いきものマップ アクセス数4,206件 投稿数555件 調査員数132人	シンボル種(鳥類)確認数1,630羽 いきものマップ アクセス数3,577件 投稿数516件 調査員数140人	シンボル種(鳥類)確認数1,265羽 いきものマップ アクセス数2,264件 投稿数479件 調査員数141人	—
【具体的取り組み】市内の自然環境を「里山」「樹林地」「草原・水辺」の3つに大別し、指標となる鳥類の生息状況を継続的に調査している。 ・自然環境や生き物に興味を持つ市民等を募集して調査員として登録し、市が定めた指標生物を中心に、調査員が市内で発見した生物を市に報告してもらっている。																	
「人と自然と文化をつなげる」	(1) 生物多様性に配慮した都市開発や事業活動、市民生活を大切にしていきたいです	市民・事業者など様々な主体との協働により、生物多様性についての理解を広めていきます	道路建設における生物多様性への配慮	30	地域戦略の庁内認知度	都市計画道路3・4・18号事業地内のクロマツ保全 八幡5丁目クロマツ公園の整備	都市計画道路3・4・18号事業地内のクロマツ保全 八幡5丁目ポケットパークの整備	八幡5丁目ポケットパークの整備	都市計画道路3・4・18号の整備 八幡5丁目ポケットパーク整備	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	—
						【具体的取り組み】都市計画道路3・4・18号整備事業において、下記の取り組みを実施した。 ・事業用地内の歩道部等に植栽帯を整備した。 ・事業用地外の残地部分にポケットパークを整備した。 ・事業用地内のクロマツについて、支障とならないものは残置するとともに、可能な限り移植を行った。											
						事業活動における生物多様性への配慮	【旧(〜2022年度)】 地域戦略の事業者認知度【新(2023年度〜)】 事業者・市民を対象とした講演会への参加者数	生物多様性セミナーへの参加事業者数:16社	生物多様性セミナーへの参加事業者数:17社	生物多様性セミナーへの参加事業者数:10社	生物多様性セミナーへの参加事業者数:10社	市内中小学校の教員を対象にした生物多様性セミナーを開催(当該セミナーは、H30.5.15、5.16の2日間開催)	令和2年2月21日に千葉商科大学にて、市川市の自然と行政における野生生物対策について講演	千葉商科大学にて、市川市の自然と行政における野生生物対策について講演	令和4年2月21日に千葉商科大学にて開催し、市川市の自然と行政における野生生物対策について講演	令和5年3月7日に千葉商科大学にて開催し、市川市の自然と行政における野生生物対策について講演	—
【具体的取り組み】H26 講師:北越製紙、地域環境計画(参加者28名) H27 講師:山崎製パン、緑のボランティア(参加者51名) H28 講師:県中央博物館、NPO日本鳥類保全協会(参加者17名)、講師:セイコーインスツル、都市鳥研究会(参加者39名) H29 講師:NECファンシオンス、手興沼水生生物研究会、都市鳥研究会(参加者35名) H30 講師:日本自然保護協会(参加者16名)、講師:都市鳥研究会(参加者38名) R2 コロナのため未開催 専門家を講師に招き、事業者、小中学校教諭、千葉商科大学など多様な主体に生物多様性セミナーに参加してもらい、多様な主体との協働による取り組みを考えてもらい、実施していく契機とした。																	
消費活動における生物多様性への配慮(2023年度~重点施策)	地域戦略の市民認知度	いちかわ戦略を知っている市民の割合:11%	いちかわ戦略を知っている市民の割合:20%	平成29年度に市民認知度調査を実施予定	いちかわ戦略を知っている市民の割合:31%	いちかわ戦略を知っている市民の割合:20%	いちかわ戦略を知っている市民の割合:23%(224人/990人)	いちかわ戦略を知っている市民の割合:36%(388人/1081人)	いちかわ戦略を知っている市民の割合:35%(357人/1028人)	いちかわ戦略を知っている市民の割合:35%(369人/1051人)	—	—	—	—	—		
		【具体的取り組み】eモニター制度によるアンケート調査を毎年実施し、いちかわ戦略の認知度の推移を確認している。															
地球温暖化対策の推進(2023年度~重点施策)	温室効果ガスの市内における排出量	3129.6千t-CO2	3118.2千t-CO2	3048.1千t-CO2	3176.1千t-CO2	2623.6千t-CO2	2579.5千t-CO2	2278.2千t-CO2	速報値 26700千t-CO2	—	—	—	—	—	—		
		【具体的取り組み】人と自然が共生し、生物多様性の持続可能な利用を実現するために、二酸化炭素排出量削減に向けて下記の取り組みを実施した。 ・第二次市川市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)を策定し、市内の二酸化炭素排出量の削減に寄与する庁内関係課の取り組みの進捗管理、環境白書での公表を行った。 ・ごみの減量やリサイクルを推進し、焼却に伴う二酸化炭素排出量を削減した。															
再生可能エネルギーの普及(2023年度~重点施策)	【旧(〜2022年度)】住宅用太陽光発電システムの普及件数【新(2023年度〜)】住宅用太陽光発電システムの設置設備台数	累計 3,051件	累計 3,244件	累計 3,696件	15,306kW ※基準を件数からkwに変更	16,336kW	17,512kW	18,913kW	20,647kW	22,165kW	R4.12月末時点	—	—	【旧(〜2022年度)】/5,000件【新(2023年度〜)】/23,000kw(23年度21,000kw、24年度22,000kw)			
		【具体的取り組み】家庭における地球温暖化対策を促進するため、太陽光発電設備の設置に対して補助金を交付し、普及に努めている。 ・「広報いちかわ」や「デジタルサイネージ」などへの掲載や、事業所にチラシを配布し周知を行っている。															
子どもたちが自然や文化にふれあえる機会を増やしていく	(3) 子どもが自然や文化にふれあえる機会を増やしていく	地域の自然や文化を身近に感じ子どもの割合	各学校で実施	自然体験学習実施学校数(延べ)56校	自然体験学習実施学校数(延べ)56校	グリーンスクール32校	グリーンスクール38校(日帰り、中学校含む) 考古博物館(自然博物館)	グリーンスクール39校(日帰り、中学校含む) 考古博物館(自然博物館)	2020年度については、少年自然の家が施設利用中止となったため、予定していたグリーンスクールは実施できず	2021年度は、少年自然の家が施設利用中止となったため、日帰りでグリーンスクールを行った。8回実施。	2022年度についても少年自然の家の施設利用が中止となったため、日帰りでグリーンスクールを実施した。14回実施。	—	—	—	—		
							【具体的取り組み】少年自然の家と動物園を活用し、市内の児童に自然に触れ合う機会を提供してきた。 ・少年自然の家にある「フアナタリウム」を観覧し、地球を愛護しようとする心を育てた。 ・おもしろ少年自然の家の宿泊学習の一環として行われる自然体験学習について、計画立案、現場での指導などを行った。										

生物多様性いちかわ戦略2021年度,2022年度の進捗
【重点施策（2023年度～）の指標について】

資料1-2

No	2023年度からの重点施策	指標	取組み実績				2025年度の達成目標
			2019	2020	2021	2022	
1-1	市内緑地の保全と活用	行徳近郊緑地特別保全地区の生物多様性の状況	鳥獣保護区(56ha)の鳥類確認種類数:92種	鳥獣保護区(56ha)の鳥類確認種類数:86種	鳥獣保護区(56ha)の鳥類確認種類数:86種	鳥獣保護区(56ha)の鳥類確認種類数:78種	【旧(～2022年度)】↑生物多様性の回復 【新(2023年度～)】↑生物多様性の維持
3	民有樹林地の保全協定の維持	協定山林の面積	37.1ha(対H26年度比) △2.6%	36.2ha(対H26年度比) △5%	36.1ha(対H26年度比) △5.3%	35.9ha(対H26年度比) △5.8%	→民有樹林地の保全
13	外来生物対策	アライグマの侵入状況	捕獲わな設置件数:10基、アライグマ捕獲処分数:6頭	捕獲わな設置件数:12基、アライグマ捕獲処分数:12頭	捕獲わな設置件数:29基、アライグマ捕獲処分数:20頭	捕獲わな設置件数:57基、アライグマ捕獲処分数:34頭	→外来種の侵入を防ぐ
26	市民と市民ボランティアとの交流の場の提供	エコギャラリー参加団体数	10団体	9団体	5団体	8団体	↑20団体(23年度13団体、24年度17団体)
27	市民ボランティアへの支援	環境団体登録団体数	環境活動団体:33団体 緑のボランティア活動支援:9団体	環境活動団体:32団体 緑のボランティア活動支援:9団体	環境活動団体:32団体 緑のボランティア活動支援:8団体	環境活動団体:32団体 緑のボランティア活動支援:8団体	↑45団体(23年度42団体、24年度43団体)
32	消費活動における生物多様性への配慮	地域戦略の市民認知度	いちかわ戦略を知っている市民の割合:23%(224人/990人)	いちかわ戦略を知っている市民の割合:36%(388人/1081人)	いちかわ戦略を知っている市民の割合:35%(357人/1028人)	いちかわ戦略を知っている市民の割合:35%(369人/1051人)	↑生物多様性に配慮した消費活動の普及
33	地球温暖化対策の推進	温室効果ガスの市内における排出量	2,579.5千t-CO2	2,278.2千t-CO2	速報値 2,670.0千t-CO2	-	↓2145千t(23年度2,290千t、24年度2,218千t、25年度2,145千t)
34	再生可能エネルギーの普及	住宅用太陽光発電システムの設置設備容量	17,512kW	18,913kW	20,647kW	22,165kW(2022年12月末時点)	↑23,000kW(23年度21,000kW、24年度22,000kW)